

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90250	民族芸術学特論	2 単位 後期 (集中)	1・2	講義	石岡 良治 (非)

■**テーマ** 芸術からポピュラー文化に至る「イメージ制作」と人類の関わりを捉える。

■授業の概要

民族学・人類学的知見の蓄積により、人類の文化的営みにおいて「イメージ」が果たす役割の重要性が広く知られるようになっている。造形芸術がイメージ制作 (image making) の観点から捉え直され、主としてヨーロッパや東アジアなどを対象とした「美術史」についても新たな光が投げかけられている。前近代における「民衆芸術」への関心や、近現代におけるポピュラー文化への関心などが、芸術学における重要な問いを構成するようになったのも、こうした文脈から理解することができるだろう。本講義はそうした状況を捉るために、現代の様々な理論を概観した上で、民族学・人類学的観点から諸星大二郎や岩明均などのマンガ作品、高畠勲や宮崎駿のアニメ作品などを読み解する。そのさい、「キッチュ」「マンガ」「絵馬」といった多様な対象に取り組んだ日本の美術批評家、石子順造の活動を手がかりにしつつ、彼が最晩年に「丸石神」への関心に至った歩みを批評的に再検証する。芸術的創造の問いを身近な場面で考えていきたい。

■到達目標

- ・民族誌・人類学やポピュラー文化などを通じた「イメージ」の役割の広がりについて学び、人類と「芸術」の関わりについて各自の関心と結びつけて理解を深める。

■授業計画・方法

- | | |
|--|---|
| 1. イントロダクション：イメージと人類 | 9. ジブリアニメと「日本」：『もののけ姫』(宮崎駿)と『鳥獣戯画』起源説(高畠勲)の限界を考える |
| 2. ドイツ・オーストリア芸術学の現代的意義：
ヴィルヘルム・ヴォリンガー | 10. 民衆芸術と消費文化 |
| 3. ドイツ・オーストリア芸術学の現代的意義：
エルンスト・ゴンブリッチ | 11. 現代日本の創作における人類学的想像力：上橋菜穂子と都留泰作 |
| 4. ジル・ドゥルーズの芸術学と現在のイメージ人類学 | 12. 装飾をめぐって：造形の「エッジ」と「テリトリー」 |
| 5. 「オブジェクト」への思弁的関心とデザイン | 13. 石子順造の仕事：先史性、キッチュ、マンガ |
| 6. 諸星大二郎と人類学的関心 (1) 漢字文化圏を掘り下げる | 14. 創造行為とイメージの分析 |
| 7. 諸星大二郎と人類学的関心 (2) 『マッドメン』と神話の構造分析 | 15. まとめ：文化の無底性に向き合うこと |
| 8. 人類の暴力と投擲：『寄生獣』とは誰か | 定期試験は実施しない。 |

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・以下に挙げる「参考文献（作品）」のいくつかに予め触れておくことが望ましい。その上で講義をふまえ、レポート課題に取り組んでほしい。

■成績評価の方法・基準

□**方法** 平常点+コメントペーパー40%、レポート60%

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化学研究科（博士課程）の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献（資料）等

□**教科書** なし、ただし参考文献・作品のいずれかに触れておくこと。

□**参考文献** 石岡良治『『超』批評 視覚文化×マンガ』青土社

 ヴィルヘルム・ヴォリンガー（中野勇訳）『ゴシック美術形式論』文春学藝ライブラリーの石岡良治による解題

 石子順造『キッチュ／マンガ』小学館クリエイティブ

 諸星大二郎『妖怪ハンター』『暗黒神話』『マッドメン』

 岩明均『寄生獣』『七夕の国』『ヒストリエ』

 都留泰作『ナチュン』『ムシヌン』

 上橋菜穂子『精霊の守り人』

 宮崎駿『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』

 高畠勲『平成狸合戦ぽんぽこ』『十二世紀のアニメーション』